



「ケイゾク」から「ダンゼツ」 新たな政策で大改革を!

日本維新の会・無所属目黒区議団 松田 哲也 議員

<行政のスリム化>

行政の仕事を民間に委譲して効率化を図ることは、行政サービスの低下になるのではなく、新たな財源の捻出により拡充となる。一層のスリム化で少子高齢化など喫緊の課題に答えよ。

区長 指定管理者制度の導入等により、区は積極的に行財政改革に取り組み、生み出された行財政資源を新たな行政需要に振り向けている。区が直接行うべき業務を見極め、来年度の行革計画改定に取り組む。

<待機児童ゼロ>

施設整備だけでは、①待機児童も、②一

人約45万円の行政コストも改善されない。ベビーシッター利用助成を対策の中心に据えれば、問題は一気に解消していくがいかかがか。

区長 子育て世代への多様な支援策に取り組む必要がある。ベビーシッター費用の一部助成については、利用と効果を精査し、具体的な手続きなども含めて検討していく。

<健康長寿の実現>

高齢者センター等の利用登録者数が6%程度では、健康寿命の延伸は進まない。娯楽に満ちたメニューが豊富にそ

ろい、誰もが楽しく使える場所にしていくべきだ。

区長 生涯学習等の事業や介護予防機能付きのカラオケ機器の設置など、娯乐的な要素を取り入れている。楽しみながら活動を行うことが生きがいづくりにつながることから、今後も高齢者の社会参加を促進する環境整備に努める。

<東京五輪の各校一国教育>

IOCが草の根交流として高く評価し、開催各国も取り組んできたこの教育を、目黒区では全校で展開すべきだ。一国に絞った交流で異文化理解を深め、子どもたちの財産にしてほしい。

教育長 「各校一国運動」の成果と課題を参考に、現在各学校が行っている「世界ともだちプロジェクト」が一層充実した活動になるよう、関係機関とも連携しながら、オリンピック・パラリンピック教育を推進していく。

<日本の伝統文化教育>

国際交流の原点は自国の文化を知ることだ。一学年で一つの文化を短時間だけ教えるのではなく、全学年が様々な文化に多く触れる機会を設けるべきではないか。

教育長 現行の取組みを継続的に行っていくことに加え、平成29年度からは小学校3校で「茶道体験教室」を実施。豊かな人間性と日本独自の文化を大切に作る心を育てていく。

<スマホ震災対策>

人と命をつなぐのは情報だ。わずかな予算で設置できるWi-Fiスポットと災害用電源と充電ケーブルを、全避難所に早急に整備すべきではないか。

区長 情報化推進計画では、平成28年度から5カ年で展開する計画の一つとして、「観光・防災拠点等への公衆無線LANの整備」を位置づけている。